

## 相馬の伝承(2) ~お市の方伝説~

藍内に身を潜め夫への  
愛を貫いた悲運の姫

「お市の方」と聞いて、歴史好きの方は織田信長の妹を連想するかもしれませんが、ここ津軽にも「お市の方」がいました。そして、そのお市さんが相馬地区とどんな関りがあるのか調べました。

和徳城主小山内讃岐守の娘・お市は、田舎館城主千徳掃部(かもん)政武に嫁ぎます。天正十三年(一五八五)津軽為信によって田舎館城が落城し、千徳政武は自害。お市は、相馬の藍内に隠れ住んだという言い伝えがあるのです(諸説あり)。

たくさんさんの戦により津軽統一を目指した津軽為信は、慶長六年(一六〇一)三月、居城の堀越(ほりこし)城から近い清水森で、敵味方関係なく戦で戦死した霊を弔う大法要を十日間にわたり営みま

した。法会四日目、ひとりの女性が仏前に進み一卷の文を広げ読み上げました。

「それ義によって、軽きものは武士(ものふ)の命、情によって捨てやすきは婦人の身なり。わが夫すでに武命を重んじ、速やかに戦場の一葉の露と身をなし

給う。惜しいかな」

読み終えるとそれを祭壇に供え、懐より短刀を取り出し、己の胸に二度突き刺し息絶えます。

お市の方は、夫と死別して十七年間も身を隠し、恨みを晴らすべく機会をうかがっていたのでしようか。または、敵をも弔うこの法要により、為信への憎しみを終わらせようとしたのでしようか。

お市の気持ちを汲みとることはできませんが、現在は、弘前市清水森の金峯神社に蔵王大権現として祀られ、静に安らかにいらっしやることを願うばかりです。



藍内の大山祇神社。相馬川を上り、相馬地区のはずれに大山祇神社はありました。神社の前には「!」マークの標識があり、一体思鳥何に注意!と驚きました。季節外れの暖かさで前日に降った大量の雪が、神社周辺の木からぼったぼったと落ちてくる状況に、わずこれに注意か!(笑)と納得。青空の下、傘を差しながら、居の前で一礼。拝殿へと向かいました(撮影:石マニア木村)

相馬地区の伝承によると、むかし藍内の立石の山中に身を潜めていたお市の方は、名を問われると「三上」の家の者だとしていたそうです。藍内の三上の家を「サンギ屋敷」といい、藩の役人が来る来ると屋敷の敷地内にある洞窟に隠れることにしていました。「サンギ」とは山祇(やまつみ)山の神)の音読みで、大山祇神(おおやまつみのかみ)は山をつかさどる神様です。そのサンギ屋敷は明治に滅びています。現在、山中の洞窟は草木に覆われ、お

そらく発見することは容易ではないでしょう。しかし、この洞窟は修験道の洞窟の名残りと思われる石マニアとしてはぜひひと訪れてみたい場所のひとつなのです。

このあたりには田舎館千徳氏にかかわる伝承がまだあります。それは天正の昔、藍内川を田舎館の落武者が南部へ出るため落ちのび、その際、一定の期間彼らを匿い、生活を共にしていた村人がいました。(裏面に続く)

## 相馬の伝承（2）～お市の方伝説～

別れ際、世話などをしてくれた村人に今のような事情だからお礼の持ち合わせがない。その代わりに今後苗字に千徳掃部の掃部を名乗るようにと去ったといいますが。千徳政武は、千徳掃部政武。今も相馬地区には、「掃部」姓の方がいます。その昔、心優しき先祖様のはからいが四百年以上経った現代に受け継がれているのです。

### “玄蕃”をめぐる もうひとつの藍内伝承

多田なのか、芝山なのか、はたまた桜井なのか……？

藍内には玄蕃の墓なるものが存在します。

相馬地区藍内の関ヶ平（せきがたい）国有林の入り口に玄蕃沢と呼ばれる沢があります。その沢の手前左側の段丘から斜めに登り道があり、杉林に入った所に高さ約六〇センチ、幅約四〇センチ、厚さ約三〇センチのやや将棋の駒型の石碑があつて、玄蕃の墓と伝承されています。むかしは樹齢数百年の松が二本と大杉が墓石のわきにそそり立ち、柵も回されていて、供物もあげられていたそうです。この玄蕃沢の墓について、地域の人には「多田玄蕃の墓」として扱われていますが、芝山玄蕃の墓という説もあります。さらに彼らの他にも、水木在家には桜井玄蕃が住んでいました。

多田玄蕃とは先の伝承のお市の方と関



藍内の弁才天祠堂。この祠堂に、元禄年間（1688～1704）の鱈口が今に伝えられています。藍内の大山祇神社は、旧には弁天宮と称したという記録があるので、そこからこの宮に移されたものか、旧来からこの祠堂にあったものかは、

判然としません。古来この祠堂にあるとすれば、この宮は鱈口以前の創建ということになって、古くからのお宮です。その鱈口を見てみたい…。相馬川を左手に上って行き横切ると…なんと道路が除雪されおらず行き止まりになってしまいました（泣）。雪が解けたら再び訪れたいと思います（写真はいずれもGoogle Earthより）



係のある人物で、慶長五年の関ヶ原の戦いの際、為信の留守中に堀越城を占拠し、攻防ののち爆死したとされる人物。三ツ目内城主でもあり、玄蕃の妹とお市が行動を共にしていた時期もあり、お市と関係の深い藍内にひそかにお墓を建てたのではないか。

芝山玄蕃は船沢中別所の領主で、藩に逆らい秋田への脱走を企て「津軽歴代記

代記類」では、芝山玄蕃は相馬山中の戸沢で子とともに討たれています。水木在家の桜井玄蕃は……詳細がつかめませんでした。住所の小字名として「水木在家字桜井」と名前が残っている人物と思われず。誰か詳しい方がいらしたら教えてください!!

玄蕃とは名前ではなく役職名のようなものです。だからたくさん玄蕃さんがいるのですね。

この玄蕃の墓も、現在はおそらく辿り着くのは難しいかもしれません。

（取材・執筆…石マニア木村）



【参考文献】  
『相馬村誌』（相馬村誌編纂委員会編）、『田舎館村誌』（田舎館村誌編纂委員会編）